

文化遺産の視覚化に関する 日本とエジプトの共同ワークショップ

—ミュオグラフィと情報科学—

開催日程 2018年7月13日(金) - 15日(日) (於駒澤大学深沢キャンパス 120周年アカデミーホール)

第一日目

13:00-13:10 「開会の辞」長谷部八朗(駒澤大学学長)

13:10-15:10 「基調講演」

1. 「ファイユームにおける古代建造物の発展過程へのICTの応用」カーリド・ハムザ(ファイユーム大学学長)

2. 「ミュオグラフィ、日本、エジプト、イタリアの例」田中宏幸(東京大学地震学研究所教授)

15:10-16:00 「休憩」

16:00-17:00 パネル・ディスカッション(ハムザ、オムラン、田中、角谷、大城) + 司会(青木)

17:30-19:30 懇親会(深沢キャンパス小ホール)

第二日目

1部 「文化遺産とツーリズムとの相関」

10:00-10:30 「埼玉古墳群について」酒井清治(駒澤大学文学部教授)、角道亮介(駒澤大学文学部准教授)

10:30-11:00 「古市古墳群について—世界遺産登録に向けて—」寺前直人(駒澤大学文学部教授)、三好玄(大阪府教育庁文化財保護課主査)

11:00-11:30 「百舌鳥古墳群の巨大古墳—近年の調査成果を中心に—」海邊博史(堺市文化財課主査(学芸員))

11:30-12:00 「奈良明日香村の遺跡群について」青木真兵(神戸山手大学現代社会学部非常勤講師)

12:00-13:30 昼食休憩

2部 文化財の保護：調査と保存

13:30-14:00 「エジプトの遺跡保存と調査のための三次元計測」金谷一朗(長崎県立大学情報システム学科教授)

14:00-14:30 「ラフーンのピラミッドのCG化と耐震構造問題」大城道則(駒澤大学文学部教授)、市川泰雅(CGアーティスト)

14:30-15:00 「アクミムのエル=サラムニ遺跡の壁画保存について」ワヒド・オムラン(ファイユーム大学准教授)

15:00-15:30 「休憩」

15:30-16:00 「プトレマイオス朝時代の神殿柱の三次元測量」菊川匡(古代エジプト美術館研究員)、市川泰雅(CGアーティスト)

16:00-16:30 「文化遺産の景観へのGISの応用」モハメド・アブ・ショウク(ファイユーム大学講師)

第三日目

3部 文化遺産の視覚化による観光客への透明性の向上

10:00-10:30 「歴史遺産の可視化とインタラクティブコンテンツ—大阪の例—」林武文(関西大学総合情報学部教授)、角谷賢二(国際美術研究所所長)

10:30-11:00 「地域の魅力を発信するための地図アプリとコンテンツとの連携」堀雅洋(関西大学総合情報学部教授)

11:00-11:30 「古墳研究に使用する機器の過去と現在—ミュオグラフィに期待すること—」米田文孝(関西大学博物館館長)、井上主税(関西大学文学部准教授)

11:30-12:00 「古代エジプトの考古遺跡の視覚化へ向けて」大城道則(駒澤大学教授)、遠藤颯馬(駒澤大学博士課程)、小林慧(駒澤大学博士課程)

13:00 散会

主催：日本学術振興会(二国間交流事業協同セミナーによるもの)

共催：駒澤大学

資料提供：堺市世界文化遺産推進室

* 全日程どなたでも参加自由(懇親会を除く)

* お問い合わせは(ohshiro@komazawa-u.ac.jp)までお願いします。

会場地図

